

熊井の森通信

第55号
(隔月刊)

2026年
10月1日発行

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

10月・11月の活動 ★新規追加の活動や日程変更情報はLINE「会員広場」に随時アップ。ご覧ください。 QRコード

■ハト麦収穫体験イベント 10月3日(土)

熊井の森／自然共生さとやま保全活用事業

ハト麦栽培
8月から参加できます
ボランティア募集中

豊かな自然の残る里山で
10月3日(土)

ハト麦収穫体験

埼玉県NPO基金
後援：鳩山町

参加費
無料

定員 先着30名

集合 9:00 西福寺・鳩山町熊井1417
特設駐車場 イベントのぼり旗前

服装 汚れてもよい服装(長袖・長ズボン)
汚れてもよい靴(長靴など)

持ち物 軍手、タオル、帽子、水筒など

脱穀 無農薬栽培のハト麦を刈取り、はざ掛け天日干し体験。お昼にハト麦パンケーキを試食。午後には里山ヒートアップの自然観察ガイドあり。後日、鳩山産はと麦健康茶パックを進呈

この事業は、令和8年度埼玉県NPO基金の助成(応援：株式会社富士薬品)により実施しています

主催(問い合わせ先) NPO法人はとやま環境フォーラム
〒350-0314
埼玉県比企郡鳩山町楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
☎049-227-3001

イベントの詳細やお申し込みは
ホームページをご覧ください
<https://hatoyama.info/>

5年前から取り組んでいるハト麦栽培事業です。谷津田の耕作休耕地で無農薬栽培したハト麦をイベント参加者と共に刈り取り、天日干しはざ掛けをしてもらう「自然共生さ

定例観察会 10月16日・11月15日

和気藹々の観察会です。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に午前8時30分に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒できます。お気軽にどうぞ！

開催日 : 毎月第3日曜日
集合場所: かわせみハウス前
集合時間: 午前8時30分(終了はお昼前)



とやま保全活用事業」として、埼玉県NPO基金の助成を得て実施します。参加費無料。ハト麦の知名度が低いせいか、申し込み状況は今一つです。「通信」購読者からの積極的な参加ご協力をお願いいたします。



■地域おこし協力隊鳩山町出前講座 10月6日(水)

鳩山町でもいよいよ始まった
**「地域おこし協力隊」
って何だ？
出前講座**

10月6日(火)

■時間 10:00~12:00
■会場 かわせみハウス
■講師 鳩山町役場政策財政課担当者

鳩山町では、10月から「地域おこし協力隊員」と共に地域の魅力の発掘や情報発信の推進をおこなう活動を開始します。具体的にはどんな活動なのか、役場担当者から説明いただき意見交換をします。どうぞご参加ください。

主催・お問い合わせ NPO法人はとやま環境フォーラム
TEL 049-227-3001

「地域おこし協力隊」制度(類似した埼玉県版)の活用が、いよいよ鳩山町でも始まります。この制度は、公募で採用された協力隊員に3年間、一定額の収入を保証し、地域づくりに専念してもらおうというものです。初年度は上熊井農産物直売所の運営協力、あんず栽培加工組合への協力、体験型観光商品及び地域資源の開発が仕事。その制度の概要と鳩山町での取り組み内容を役場担当者からじっくり説明を受けます。多くの方の講座参加をお待ちしています。一緒に地域づくりに取り組みましょう。

10月・11月の活動

■町の文化祭で里山ジオラマ展示



11月2日(月)～3日(火)の2日間、鳩山町の文化祭(会場 中央公民館)で里山ジオラマを展示します。テント内の側面に熊井の森の樹林の雰囲気再現した壁紙を張り、生息する生き物たちのはく製や写真を展示し、熊井の森での定点撮影調査で撮ったタヌキ、イノシシ、ウサギ、テン、シカ、アナグマなどの動物たちの動画を上映する予定です。入り口には足ふみ脱穀機の展示も。ご来場をお待ちしています。写真は昨年の展示の様子。

■「エコフェスタ比企in鳩山」開催

第23回
比企丘陵の自然と文化と
人々の暮らしを考える

エコフェスタ比企 in 鳩山

日時 11月7日(土)
9時30分～13時

場所 かわせみハウス前
(雨天の場合は11月8日開催します)

・リサイクルショップ・菓子
・パンケーキの店・手作り小物
・掘り出し物バザー
・雑貨・有機野菜・新刊本古本
市・などなど・ギター演奏

主催/NPO法人はとやま環境フォーラム 電話 049-227-3001
運営/エコフェスタ比企実行委員会

出展者募集
どなたでも
ご連絡ください

11月7日(土)、比企丘陵の自然と文化と人々の暮らしを考える機会として、2015年から始めた「エコフェスタ」は今回で23回目(年2回開催)です。住民自治会のバザーを始め、ニュータウンの手作り小物グループや、有機野菜づくりをしている皆さんが参加されます。当団体が熊井の森谷津田で栽培しているハト麦入りパンケーキもぜひ味わってください。出店希望の方はご一報を。(電話049-227-3001)

■かんちゃんファームで芋掘り

11月8日(日)、下熊井にある「かんちゃんファーム」で芋掘りが楽しめます。かわせみハウス前で、毎週木曜日に有機野菜の朝市をやっている閑野さんが、丹精込めて育てたサツマイモを畑から収穫します。

午前9時に、下熊井の県道41号線(東松山越生線)沿いにある新生宣教団(熊井170)駐車場に集合。徒歩3分で「かんちゃんファーム」に。閑野さんに芋掘りのコツを教わり、自分で掘った芋は希望する量を別途、購入できます。お昼ごろに解散。定員15名程度、参加料500円。参加申し込みは電話か、QRコードからお願いします。

8月・9月の活動報告

■里山ビオトープ生きもの観察会



8月22日(土)熊井の森・石場沼谷津田のビオトープでの生きもの観察会を開催。総勢22人(埼玉みどりのポータルサイトからの参加申し込み3名)。アンケートでは「説明がわかりやすい。スタッフが面白い。軽食のパンケーキがおいしかった」「自然が豊かな場所に住んでいます。植物も虫も知らないまま、不思議にも感動もなく過ごしていて、もったいないことをしていたと思いました。いつか自宅の庭にビオトープを作りたい」などのほか、「もう少しゆっくり回りたい」との感想もありました。解説講師の三森典彰さんに感謝です。

■雨でも楽しく栗拾いイベント

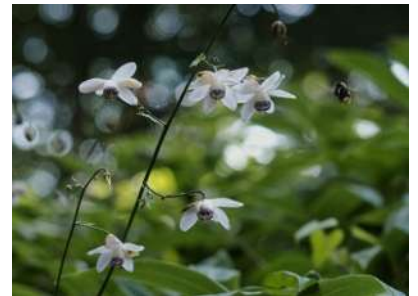
9月26日(土)、あいにくの雨で2組のキャンセルあり。「子どもに栗拾いを体験させてやりたかった」と東京からやってきた親子連れなど、それでも11人の参加があり、予定より30分遅れでイベント開始。主催者と生産者のあいさつの後、みんなで栗林へ。ありました、栗が。地面に一杯落ちていました。

活動日誌(8月・9月)

- 8・1 通信53号発行
- 8.2 資源回収 暑気払い
- 8.4 草刈り
- 8.10 ウッドデッキづくり
- 8.16 8月理事会
- 8.20 物置づくり
- 8.21 生態系前田事務局長を訪問
- 8.22 ビオトープ生きもの観察会
- 8.23 ハト麦栽培(東京より2人参加)
- 8.29 ハト麦栽培 会計処理
- 9.3 教育委員会にジオラマ説明
- 9.6 資源回収
- 9.8 ハト麦仕事
- 9.9 トラスト候補地の地主訪問
- 9.10 ハト麦栽培作業打ち合わせ
- 9.10 グランドワーク川口岩崎事務局長が下見に来訪、協生農法作業
- 9.14 竹の搬入、ハザ木組み立て
- 9.14 ウッドデッキづくり

■かわせみギャラリー(～11月30日)レンゲショウマ

撮影・瓜生康三郎



レンゲショウマ(蓮華升麻)は日本を代表する日本固有種の植物。本州(福島県～奈良県)の太平洋側の涼しい山林にしか自生していません。その可憐な姿から「森の妖精」や「夏の妖精」とも呼ばれています。レンゲショウマの生息には①太木が作る「天然の日傘」、②腐葉土による湿気などのキープ、③冬の「防寒布団」になる落ち葉が必要。東京都の御岳山には約5万株の大群落があり、毎年8月頃に見どころを迎えます。展示写真11枚は、滑川町の国営森林公園で撮影。(瓜生)

- 9.18 草刈り
- 9.19 草刈り
- 9.20 9月理事会
- 9.22 ちよつくま出荷者交流会
- 9.24 ウッドデッキづくり
- 9.26 栗拾いイベント
- 9.27 グランドワーク川口視察
- 9.30 熊井の森通信55号発行



今回は、雨のため、ピザ窯前での昼食ではなく、焼いたピザは集会所まで運んで食べることになったのは、ちょっと残念だったかもしれ

ませんが、ブルーベリーの収穫のほか、お宝さがし(スペシャルプレゼント)やミニマルシェなどもあり、それなりに楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

■熊井の森里山ビオトープを川口市から視察に

9月27日(日)、見沼たんぼの保全・自然学習活動団体「グランドワーク川口」(1998年発足)の皆さんが熊井の森のビオトープなどの視察に来られました。自然大好きの方々ばかりで、野鳥や昆虫に詳しい方もおられ、道端の草花に足をとめ、ビオトープの説



明の後、結局は、奥の石場沼まで足を運んでいただき、熊井の森の里山環境をしっかりと視察していただきました。

これを機会に、お互いの交流や活動協力が進むことを願っています。

■熊井の森散歩道計画について提案書を町役場他に

9月24日付で、熊井の森の臨縁部(ちよつくま上)に自然と共生するSDGsにかなった散歩道の設置に関して、関係諸団体(町役場、上熊井活性化委員会、指定管理者、同地域で活動する団体が一堂に会した話し合いの場の設置等を求める提案書を町役場ほか関係団体に提出しました。

ハトムギ畑から

■ハトムギ作業になんと都内から助っ人2名

8月23日(日)、だんだん育ってきたハトムギの、栽培作業がますます忙しくなる頃、都内から強力助っ人2名(城島徹さん、井上理津子さん)が東京都練馬区と杉並区から掛けつけて来てくれました。お二人は、普段持ちなれていないだろ



う草刈り機や鎌などを持って、歩き難い湿った土の中を、いっしょに肥料撒きをしたり、草刈りをしたり、背が高くなってきたハトムギが倒れない

ように紐で囲う作業にも半日手伝ってもらいました。ありがとうございました。今年のハトムギはかなり良い育ちのようで、10月3日収穫体験が楽しみです。当日は、刈り取ってハザ掛けする作業です。多数の参加、お願いします。(嵯峨千代美)



※城島さんからは後日、「農業に惹かれる現代人はもっと増えていくと思います。農作業は土と水と光と風と季節と気候と人の手と、何より『時間』を必要とするからです」とのメッセージをいただきました。

城島徹/ジャーナリスト 著書に、新宿ゴールデン街<双葉>の三代目ママのファミリー・ヒストリーをたどるノンフィクション「<双葉>女三代記」(藤原書店刊)ほか 井上理津子/ルポライター 著書に、東京と大阪で出会った不思議なことを東西比較しながら深掘するルポエッセイ「東京で驚いた」(光文社刊)ほか

協生農法で里山再生を

■めげずに続ける協生農場

3年目に入り、“今年こそは!”と続けている協生農法。なかなか思うような結果が出ません。何が原因なのか? 天候、種の品質、播き方、手入れ、畑の土壌、いろいろ考えられますが、これと言った要因を確定することはできません。それでも協生農法を研究し、世界にこの農法を広めようと格闘しているソニーCSLの若い研究員さんは、我が鳩山協生農場への指導をあきらめず、9月にも指導に来てくださいました。

ご自分で種から育てたミカンの苗を植えてくださり、用意しておいた種(冬野菜)を播いてくださいました。その種

は今しっかり芽を出し、力強く成長しています。これは何としてもしっかり育て、美味しい野菜を採取したいですね。

日本の農業が大きな曲がり角にある現在、農機も肥料も農薬も不要で、労力さえも削減できるオーガニック農法。休耕・荒廃する農地の増え続ける日本に何とか根付かせたいと思い、これからも取り組んでいこうと思います。(井田清)



ニ－ハオ 熊井の森歳時記 ④

どんぐりコロコロ、かわいい姿に一目ぼれ



どんぐりがコロコロと転がる秋の季節がやってきました。とげとげとした帽子をかぶった丸いクヌギの実、すりりとしたコナラの実など、足元には様々な実が転がっています。中国の北国に育った私にとって、どんぐりはこの地にやってきて初めて出会う新鮮なものでした。「動物たちが越冬のためにどんぐりをたくさん集める」という物語は教科書でよく目にしたため、とても印象に残っていました。どんぐりっていったい何だろう、どんな味がするのだろうと、ずっと不思議に思っていたのです。そのため、そのかわいい姿に一目ぼれし、ベビーカーを押しながら、いつも「すみません、すみません」と小声でどんぐりに話かけていました。「どんぐりの背比べ」ということわざがありますが、実際にどんぐりをよく観察すると、同じ模様や表情のものはほとんどありません。それぞれの形に個性があり、まさに金子みすゞが言ったように、「みんな違ってみんないい」のだと感じます。自然という造物主が本当にすごいものです！ しかも、どんぐりの生命力は強いのです！ 数年前、近所の小学生からどんぐりの苗をプレゼントされたことがあります。庭の隅に植えたところ、時々枝を剪定しなければ困るほど、ぐんぐんと伸びています。

どんぐりの木を眺めながら、来年娘がもう少し大きくなったら、一緒にどんぐりを拾って何かを作ろうという新しい楽しみができました。(王 菲)

活動後記 ■9月22日 ちょつくま(上熊井農産物直売所)に出荷される生産品のおつまみ試食会を兼ねたビアガーデン交流会に参加。たまたま同席した参加者の一人が純米酒づくりのノウハウを戦後につないだ酒蔵(蓮田市)の「神亀」を差し入れたので、訊いてみれば、酒蔵の井戸のメンテナンスをした水道屋さんだった。酒造りをめぐる蘊蓄に興味津々。ついでに、温泉の井戸掘りについて尋ねたら、費「山行水行」大正7年刊用は数億円はかかり、クラファンで何とかなるような代物でないことが分かった。足湯にした場合でも、汚染防止のため、浄化処理が必要で、そのまま川に流してはいけないとか。熊井の森のふもとには、田山花袋著「山行水行」で「越生町から一里半、北に熊井、南に黒山の二鉱泉あり」と記され、戦後初めまで、浴客が訪れていた「熊井の鉱泉」場跡が今もあるが、その復活は、当分夢のままになりそうだ。



森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ②8

棘だらけの葉で憎い継子の尻を拭く



▲ミソソバ(タデ科)

夏の中ごろから熊井の森の湿地は小さなピンクの金平糖のような花が咲き始めます。この辺りで見られるのは大体3種類程で、どの植物もタデ科で花の見た目もとても良く似ています。一番よく見るのがミソソバで、葉っぱの形が牛の頭に見えることから、別名でウシノヒタイとも呼ばれています。

次いで良く見るのが、葉っぱが細長く、茎などに細かなとげがたくさん有りザラザラとしていてヌルヌルのウナギでも捕まえられそうだとしたことをついた名前のアキノウナギツカミで、全体的に線の細い印象です。

3つ目は葉っぱはミソソバに似ていて、アキノウナギツカミのようにとげがあるのですが、こちらのとげはだいぶ荒めで、このとげだらけの葉で憎い継子の尻を拭くだろうという、とんでもない命名センスで名づけられたママコノシリヌグイ。最後に番外編としてママコノシリヌグイにそっくりですが、花がピンク色ではなく緑色のイシミカワで、花が地味なこと、葉っぱの付け根に托葉という丸い葉っぱのようなものがついてること、真っ青な実がつくことで見分けることができます。これらのピンクの小さな花達ですが、近くで見ると透明感があり、なかなか精緻なつくりをしていて大好きなお花の一つです。(愛場 結偉)

はとやま環境フォーラムの会員募集中

★2026年度会費 3,000円

ゆうちょ銀行 店名 ○三八 店番038 普通預金
口座番号 96656981
口座名義 トビハトマカキョウフォーラム

熊井の森トラスト基金へのご支援を

★支援金 1口 5,000円から

<振替口座> ゆうちょ銀行
記号番号 00210-4-143207
加入者名 熊井の森トラスト基金

<普通口座> ゆうちょ銀行 支店 ○三八
口座番号 9472664
口座名義 クマキノモリトラストキキ
(熊井の森トラスト基金)